〔生化学　第83巻　第8号，p. 687，2011〕

アトモスフィア

東日本大震災に学ぶ科学する心

山　下　克　子*

2011年3月におこった東日本大震災は東北出身の私にとって胸が塞がる思いがします．心からお見舞い申し上げます．この度の甚大な震災の中で，被災された方々の礼儀正しさと思いやり，また，自動車部品メーカーの小さくとも最高の物作りをする技術力が世界中に知れ渡り，日本製品に対する信頼性が高まったことにほっとすると同時に，これからの成熟した日本の進むべき方向を示したものと思われ，必ずや復興出来ると信じております．この震災に学び，改めて生化学に携わる者として原点に立ちかえって科学研究を考えてみたいと思います．

独創的科学研究は真っ白なキャンバスに自由闊達に描く一幅の絵に例えられます．一般的には，作業仮説を立てて研究を行うが，高い確率でうまく行きません．そういった過程の中で，思いがけない発見（Serendipity）に遭遇することがあります．このSerendipityを見逃さずにキャッチ出来るかどうかが科学の成否の鍵となります．大発見ばかりでなく，日々，その感性を高めることが思いがけない発見の喜びに遭遇できることを知るべきです．この感性を磨く指導を続けることが教育者の喜びでもあり，研究室にその様な雰囲気を満たし，楽しみながら，指導者も学生も共に切磋琢磨していかなければなりません．また，新たな精緻な方法論の開発は生命機能の飛躍的な解明及び医学的治療に革命的効果をもたらして参りました．しかしながら，今回震災で科学の極致と思われていた原子力発電は，実際には政治的な安全神話で塗り固められたものであり，世界を震撼させる事故を引き起こしました．科学者は原点に立ち返って，謙虚に科学に対峙しなければならないでしょう．思いのほか，エネルギー効率の悪い原子力発電は，装置の巨大化を生み，何か事あると被害が甚大になります．現段階で一足飛びに脱原発できるわけもなく，冷静に石油プラント等の危険管理に学び，導入しなければならない点は最大限に議論出来る柔軟性を持つべきです．原子力学会の会員以外の意見を聞く耳を持たないという様な態度は絶対に避けなければいけません．

この震災で多くのスポーツ，芸術分野の方々のチャリティー活動が目立ちました．科学を含め，人々の創造的な活動によって人を感動させるのに必要な力は「人間力」と思われます．単なる知力のみならず，感性の豊かさ，思いやりの深さ，持久力，体力，集中力，心のしなやかさ，胆力，洞察力に裏打ちされた人間力によって感動や癒しが生まれます．だからこそ，一見，心の痛みと関係なさそうに見えるスポーツ，音楽，詩の朗読が被災者の疲れた心をいやしてくれます．「三つ子の魂，百までも」という様に感性の豊かさを育てるのは幼，小，中，高校生の感受性の高い時期です．それまでに培った人間力が，それぞれの専門分野に進んだ時に花開くと思われます．枯渇した人間力はヒトとのコミュニケーション力の低下を引き起こし，現在，各大学で横行している種々のハラスメントを生んでいる様に見えます．老いも若きもこの大震災に対峙し，心してそれぞれの人間力を高め，成熟した日本社会に生まれ変われる様にしたいものです．

*東京工業大学イノベーション研究推進体